

◦ 6月16日（火）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 建築として見る実篤記念館 篇】

実篤のほっこりエピソードはお楽しみいただけただけでしょうか。今回からは趣向を変え、当館の建物を鑑賞していきたいと思
います。ものすごいこだわりがある建築なのです。

【#おうち時間で実篤を知ろう 97】

昭和60年に開館した当館、最初は展示室がある三角屋根の本館だけでした。平成6年にかまぼこ屋根が特徴の資料
館を増築し、本が読める閲覧室など、より充実した学びをお届けできるようになりました。



おうち時間で実篤を知ろう >> 建築として見る実篤記念館篇

三角屋根は、実篤が宮崎県に創設した新しき村にあった茅葺き屋根の建物をイメージし、少し丸みをおびた三角です。形だけでなく葺き方も異なり、本館は一文字葺き(いちもんじぶき)、資料館は竖はぜ葺(たてはぜぶき)というこだわり。この建物はどちらも坂倉建築研究所が設計を手掛けました。



本館の屋根の軒を見ると、小さな四角い模様が続いています。凹みがあることで圧迫感が緩和され、建物の奥行きをより感じることができます。



◦ 6月17日（水）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 98】

本館に入ってすぐにあるロビーの天井は、軒と同じ四角模様に、これまた四角い照明が設置されています。さらに展示室へ進んでいくと、ここにも四角い照明。パトンパスのように空間同士を繋げていきます。



ここでは色と素材にもご注目ください。壁は、コンクリートのグレーに馴染む、ほんのり青みがかった明るいグレーです。巾木(はばき)は木目の板、床はけやきのブロックを敷き詰めることで空間に温かみを与え、冷たくスタイリッシュな印象を受けるコンクリートと良いバランスの空間です。



◦ 6月18日(木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 99】

展示室の入り口は天井が低いですが、奥に進むと三角屋根を感じる高い天井が現れます。振り返ると、実篤の書をシルクスクリーンで拡大印刷した大きな文字が現れます。



◦ 6月19日（金）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう めでたく100】

資料館のかまぼこ屋根の中はこんな感じです。高い天井にアーチ型の窓、軒に近い休憩コーナーは天井が斜めに弧を描いています。本館の屋根の直線が借景となり、天井の曲線がより美しく見えます。

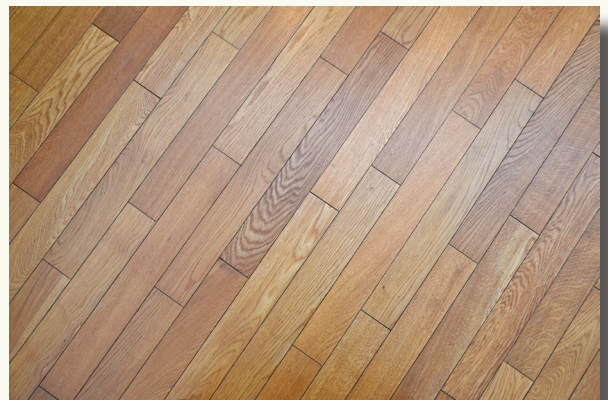


◦ 6月20日(土) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 101】

当館では足元にも注目です。空間ごとのこだわりの床を一挙にご紹介します。

1枚目より、屋外の敷石(上段左)、ロビーの床(上段右)、本館展示室の床(けやき)(下段左)、資料館の床(なら)(下段右)です。



屋外の敷石とロビーの床は秩父産(埼玉県)の青石です。様々な長さの材を互い違いに敷き詰める乱尺張り(らんしゃくばり)で組まれています。屋外の青石は凹凸で、割れやひびに鋳物感や素材感を感じます。

一方、ロビーの青石は研磨されているので、石がもつ美しい模様を楽しむことができます。



おうち時間で実篤を知ろう >> 建築として見る実篤記念館篇

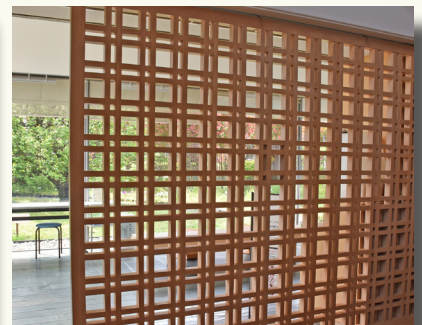
◦ 6月21日（日）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 102】

当館の各所で見られる四角や直線・曲線と同じように、格子も多く配置されています。それぞれどこの格子か分かりますか。



全体が見える写真で答え合わせです。1枚目から、実篤記念館の門扉、展示室の扉の格子、休憩コーナーの格子戸です。写真の門扉は職員用通用口ですが、実篤記念館と実篤公園記念館側入り口にも設置されています。まとめてみると、ひとことで格子と言っても様々な種類がありますね。



写真を撮り終えて職員用通用口に戻ったら、足元に格子が!これは排水溝、格子に目を向けるといろんな格子が見えてきますね。バックヤードにある排水溝なので、ツイッターの写真でお楽しみください。



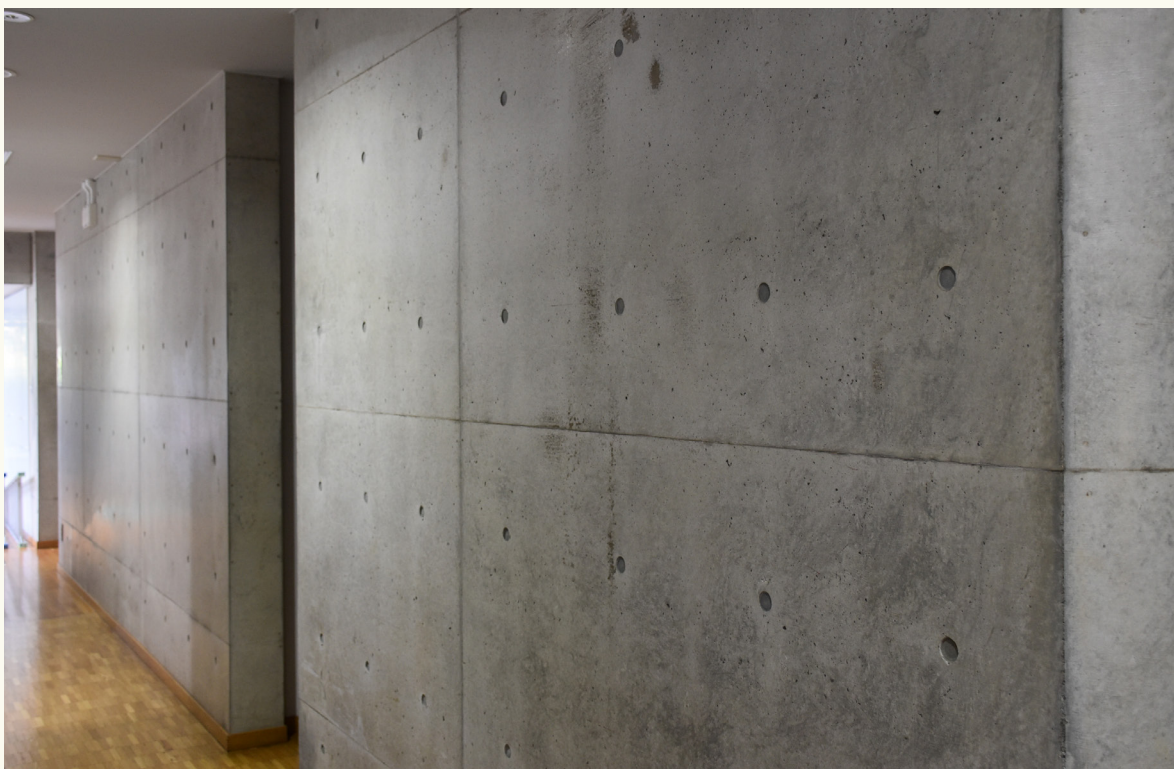
◦ 6月23日(火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 103】

せっかくなので、普段はご覧いただけないバックヤードも紹介していきます。館内にある職員用扉を開けると、やはりグレーに囲まれていました。こだわりはお客様に見えない部分へも続いていくのです。



バックヤードの廊下は、打ち放しのコンクリートに木の床です。夏はコンクリートが冷たくて気持ちいいですが、冬は寒くて凍えます。



◦ 6月24日（水）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 104】

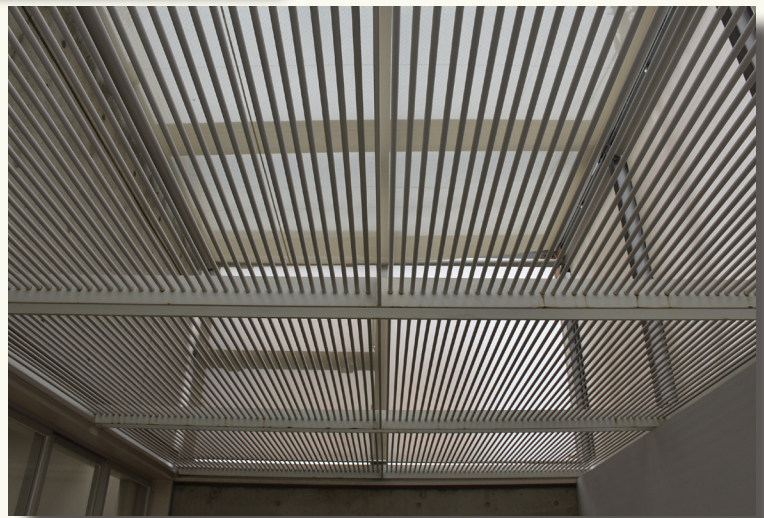
バックヤードの廊下の先に、実は階段があるのです。平屋に見える当館ですが、地下1階・地上2階建てです。地下の部屋で講座を開く時には、訪れた皆さんに「こんなところがあったのね～」と驚かれます。



◦ 6月25日(木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 105】

前回紹介した、地下に続く階段から上を見上げると、高く大きな天窓があります。窓の手前には白い鉄の円柱が並び、おしゃれなストライプ柄です。直接入ってくる太陽の光を和らげているのでしょう。



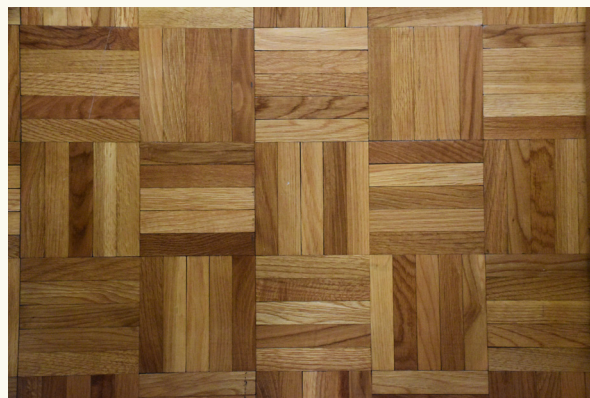
晴れた日には、白い壁にこんな影ができます。季節や時間、その日の天気によって色や形が異なり、壁一面の絵のように楽しむことができるんですよ。



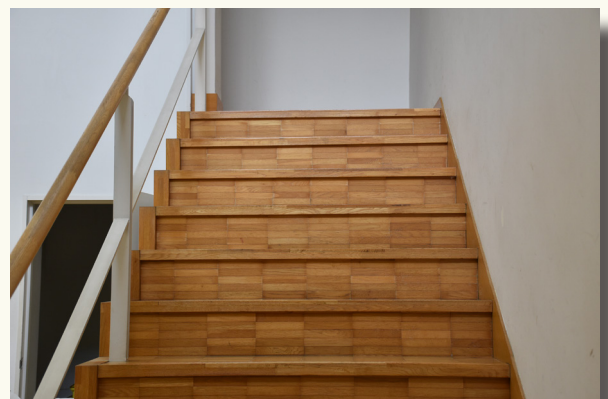
◦ 6月26日（金）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 106】

展示室や閲覧室でも見比べた床、バックヤードの床も様々です。1枚目より、本館時代からある廊下、資料館の増築で作られた部屋、収蔵庫です。



1階と地下をつなぐ階段はどんなかなと見に行くと、こんな感じでした。よく見ると、階段の側面も同じ板目なのですよ。



◦ 6月27日(土) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 107】

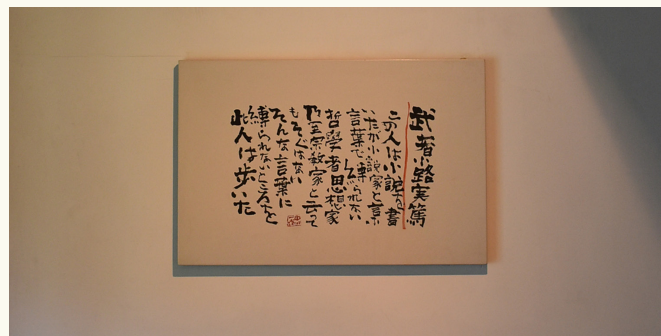
建築のこだわりが詰まった当館には、実篤の要素も散りばめられています。ロビーには「日々是好日」が壁一面にあり、手動で開ける扉の取っ手は実篤の絵になっているんですよ。



館内の各所には、実篤の書をもとにした一文字が配置されていて、写真の「愛」のほか「道」「美」「真」「和」の、全部で5文字あります。今は館内整備のため展示室が休室中なので見ることはできませんが、館内全てが利用できるようになったら、ぜひ探してみてくださいね。



また、展示室には、画家・中川一政が実篤の人柄を書いた書を、陶板にしたものが飾ってあります。中川は、当館が開館する時には90歳を超えていましたが、開館式に出席され、祝辞を頂戴しました。陶板の元となった書は、当館で大切に保存しています。



◦ 6月28日（日）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 108】

当館の館名板と実篤公園の園名板を見たことはありますか。実篤没後に開館・開園したので、実篤の友人が心を込めて文字をしたためました。記念館は中川一政、公園は梅原龍三郎、どちらも画家の書なのです。



この陶板でできた館名板、実は2代目なのです。陶板はいわゆる焼きもので、最初に焼き上げた館名板はもう少しピンク色に近いグレーだったので、建築との色のバランスで設計者のお眼鏡にかなわず、作り直して交換したそう。これは「看板がピンクでびっくり事件」として職員の間で語り継がれています。

園名板は、実篤公園の仙川方面入り口にあります。実篤公園は昭和53年5月12日に開園。ちなみに当館資料館も平成6年5月12日オープン。そう、5月12日は実篤の誕生日なのです！

